

地域と学校に感謝を込めて



惜別の思いを胸に式に臨む出席者

2月20日、笠祇小休校式が行われ、地域住民や歴代の教職員、卒業生ら約260人が参列しました。式典では、児童による「子どもでべす踊り」が披露され、参列者は懐かしんだり、目を潤ませたりしながら児童の踊りを通して思い出を振り返り、胸に焼き付けました。

最後は出席者全員で笠祇小学校校歌を斉唱し、学び舎との別れを惜しむ歌声が山あい響き渡りました。



全校児童7人による子どもでべす踊り



出席者全員で校歌を歌い休校を惜しんだ
実行委員長の鈴木友重さんがあいさつ

卒業生の思い

Interview



笠祇地区出身／平成8年度卒業
すずきともや
鈴木友也さん(31歳)

人生の原点は 笠祇小学校

私たちの在学時も人数が少なく複式学級だったので覚悟はしていましたが、ついにこの時が来たかという思いです。

小学校時代は、部活動でバレーボールをしていました。当時は、視力が悪くメガネをかけていたのですが、ボールが当たってよくメガネを壊したのも今では良い思い出です。思い出の詰まった体育館や校舎を今後、有効活用してしてほしいですね。

笠祇小は自分の人生の原点です。ここで勉強やスポーツを学んだことによって今があると思っています。今、地域の草刈りや焼肉フェスティバルを開催したりする笠祇クラブで活動しています。これから自分たちが地域を元気にできるよう頑張っていきたいです。



奴久見地区出身／平成23年度卒業
すずききよら
鈴木聖礼さん(16歳)

若い力で 地域盛り上げたい

休校になると聞いたときはびっくりしました。人数が少ないのはわかってはいたけど、なくなるとは思っていませんでした。

笠祇小はみんな仲良く、私にとってはとても大切なものです。大切な思い出もたくさん詰まっています。特に運動会は思い出深いです。地域主体で地区住民が大勢参加する運動会は、地域のつながりが深い笠祇小ならではの思い出です。毎年楽しみで、卒業した後も毎年参加していました。これからも地域みんなが集まる運動会が続いてくれるとうれしいですね。

小学校が休校になってさみしくなるけど、今まで通り元気な笠祇になるよう若い力で盛り上げていきたいです。



古竹地区出身／昭和42年度卒業
かとういつお
加藤逸雄さん(60歳)

笠祇小学校は 心のふるさと

私が在学中のときに給食室ができ、当時は裕福ではなかったのに給食はありがたかったですね。当時の先生に宮崎や志布志に連れて行ってもらったのも思い出に残っています。

母校が休校するのはさみしく残念です。笠祇小は地域とのつながりが深い分、地区住民にとっても大きなこと。今後、小学校が違う形で地区住民の集いの場になることを期待したいです。

私にとって笠祇小は心のふるさと。地域を応援する気持ちは常に持っているの、できることがあれば力になっていきたいですね。子どもたちには休校しても、元気なあいさつやでべす踊りなど笠祇小の良さ伝統を継承して行ってほしいです。

最後の児童を送り出す、校長先生。
笠祇小への思いと
ここを巣立つ子どもたちへの
メッセージを聞きました。

未来に向かって力強く進んでほしい

赴任してきて2年が経とうとしていますが、笠祇小は地域の中にある、地域を支える学校だと実感しています。地域の皆さんが子どもたちを大切にしてくれて、学校に惜しみない協力をしてください。自分の孫や子どもが学校に通っているかのように温かく見守られながら子どもたちも成長できたのではないかと感じています。保護者や地域の皆さんには本当に感謝しています。

raithたいし、母校を思い出してもらいたいですね。

子どもたちはこれから環境が変わりいろいろ大変なこともあると思いますが、過去は変えられませんが、未来は変えることができます。校歌の3番にある「いばらの道を進みゆく日本の子どもだ強くなれ」という歌詞のように、未来に向かって力強く進んでほしいです。



笠祇小学校校歌

作詞 新名弘之 作曲 恒吉利忠

- 笠祇の山に空青く
光る若葉に風かおる
共につどえばきょうもまた
うた声ひびくかろやかに
あかるいえがおの元氣な子
- 光かがやくまなびやに
菊やすみれの花におう
共にいそしみはぐくめば
心もからだもたくましく
伸びゆく母校にこのほこり
- 笠祇の川に水清く
語るせせらぎ友の声
みんな手を取りむつまじく
いばらの道を進みゆく
日本の子どもだ強くなれ

